

第3次集中改革プラン

期間：R8年度～R11年度



サービス向上

住民と行政の信頼関係構築



コスト削減

徹底した事業見直しと最適化



新たな価値創造

自主財源の確保と活性化

策定の経緯と新たな視点の導入

砥部町行財政改革大綱を基に、多様化する行政課題に対応するため多角的な改革を実施。

- ・ 第1次（R2～R4）：オープンデータの推進、出前講座の開催 等（18項目）
- ・ 第2次（R5～R7）：SNS情報発信、SDGs推進 等（28項目）

※第2次プラン項目のうち、定着したものは各部署の通常業務へ移行し、新規プランでは全庁的に推進すべきものを厳選

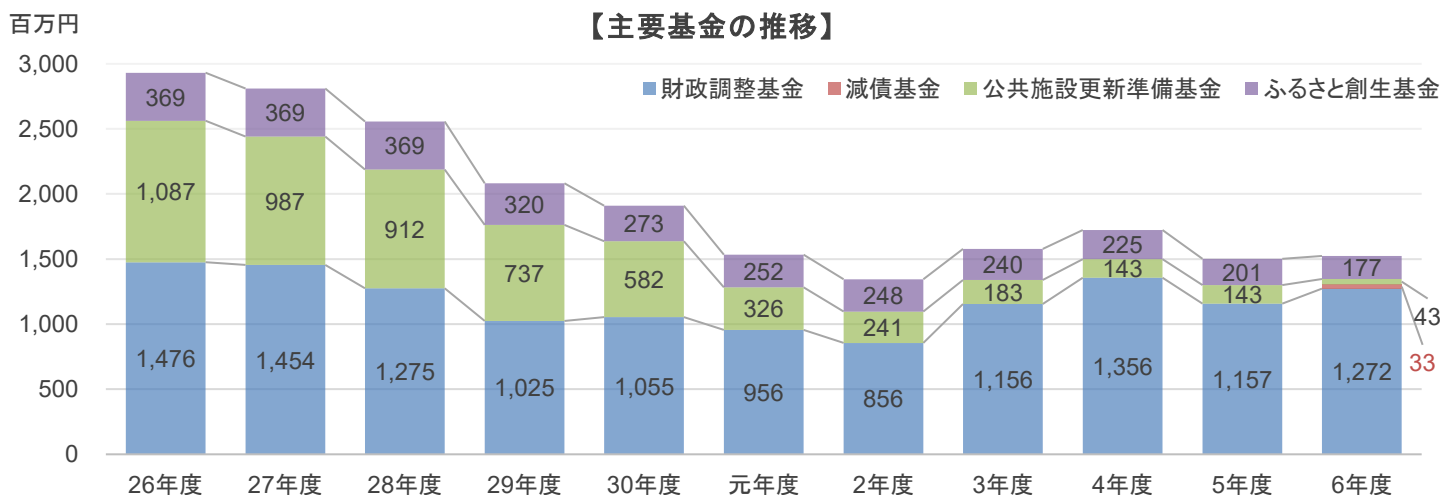
【3つの視点の導入】

第3次プランでは、全ての施策において「サービス向上」「コスト削減」「新たな価値創造」のいずれかの成果を追及するよう視点を導入しました。単なる経費削減にとどまらず、質の高い行政サービスと強固な財政基盤を両立させるための「質の改革」を目指します。

⚠ 財政状況

人口減少や少子高齢化が進む中、実質単年度収支の赤字により基金（貯金）の取崩が常態化しています。多くの公共施設やインフラが一斉に更新時期を迎える中、このままでは数年後に財政調整基金が枯渇する恐れがあります。

【主要基金の推移】



◎第3次プランの基本方針：「選択と集中」

『砥部町行財政改革大綱（2020-2029）』を軸に、限られた資源と職員を最も効果的に活用するため、「あれもこれも」を排し、限られた資源を真に必要なとされる改革へ一点集中的に投入。

重点的に取り組む5つの施策（令和8～11年度）

① タウンミーティング

サービス向上

【現状】地区懇談会の減少等により、意見交換の場が不足。
【取組】「タウンミーティング」を定期的に開催し、行政と住民の理解と連携を深める協働体制を整備。必要に応じ出前講座（町政の状況説明、各課事業説明）も実施します。

住民との協働により解決した地域課題件数

累計 8 件

② 公共施設再編・最適化プロジェクト

コスト削減

【現状】施設の老朽化とニーズ変化への対応見直しが必要。
【取組】対象施設の機能診断と役割再評価を実施し、今の時代への最適化（集約・転換等）を判断。
（検討例：陶芸作業場、陶芸創作館等）

将来財政負担の削減

累計6.5億円超

③ 円滑な財政運営に向けた基金積立

コスト削減

【現状】基金取崩が常態化しており、公共施設更新準備基金はピーク時の10億9,000万円から4,000万円まで減少。
「赤字※体質」からの脱却が必要です。（※実質単年度収支（単年度収支+積立金-取崩金）の赤字を指します。）

【取組】事務事業の徹底的な見直し（縮小・廃止・効率化）により財政余剰を捻出。公共施設等総合管理計画に基づく長寿命化・更新費用を見据え、災害や将来の施設更新に備えて「確実に積み立てる」体質へ転換します。まずは、公共施設等総合管理計画に基づく将来負担を見据え、単年度収支の黒字化による年間5,000万円規模の積立財源の確保を定着させ、計画期間内での基金残高2.5億円の回復を目指します。

財政調整基金
12 億円維持

公共施設更新準備基金
2.5 億円積立

④ 普通財産の貸付・売却

新たな価値創造

【現状】活用されていない遊休財産が存在。
【取組】財産の現状把握に加え、公募型プロポーザルの実施など市場への積極的アプローチを行います。

売却・貸付件数

25 件

⑤ ふるさと納税の推進

新たな価値創造

【現状】特定返礼品への集中が課題。
【取組】重点返礼品（砥部焼、柑橘等）のブラッシュアップや供給業者拡大を図り、自主財源確保と関係人口の創出を目指します。

寄付金目標額

3 億円